



親の会だより

第74号平成25年3月発行

東大阪市手をつなぐ親の会

(題字 吉岡名誉顧問)

(年 3回)

第2回全日本手をつなぐ育成会事業所協議会全国研修会

(併催:近畿ブロック事業所協議会・魅力ある事業所づくり研修会)

会長 坂本 ヒロ子

2013年3月2日～3月3日 和歌山県白浜町にて開催された上記研修会の中で新しい時代に立ち向かう! <これからの事業所の在り方、課題そして理念>で法人のこれからの課題として、

1. 共生社会の一翼を担うため「法人としての社会的責任の持てる体制はできているか」
事務量の増加、職員の専門性の向上、危機管理能力の必要性などに応じられているか、力量が問われています。法人本部の機能の強化、本人を中心に置いた権利擁護も強化していく必要があります。
2. 「法人として障がい福祉に理念を持っているか」
無認可の作業所の時代から親や親の会を母体とした作業所は、本人にもっとも寄り添う立場にありました。この立場は、現在も私達のもっとも維持すべき特質だと考えます。
ただの事業者にならず、障害を持つ人と共に生きる社会を目指して、先頭に立つ新しい時代に向かうそんな「志」が法人には必要です。
権利擁護が叫ばれ虐待防止法が施行される今日、いよいよ「志」が試されることになると思います。
3. 「手をつなぐ親の会との連携」
地域の親の会には、母体となった法人と連携して必要な事業を生み出す原動力となっていてほしいと思います。
共生社会の一翼を担おうとする今、地域では足りない事業がまだまだたくさんあります。地域での親の会と法人とのパートナーシップの在り方、またそれに対する親の会の支援の在り方が問われています。

の三点を松崎伸一氏はあげられました。私たちも東大阪市手をつなぐ親の会が母体となつてたちあげた社会福祉法人青山会が作成した福祉推進ビジョン 2011—今後の施設整備計画—が実施されるよう協力しなければなりませんし、私たちの子どもの高齢化についても一緒に考えていきたいと思っています。

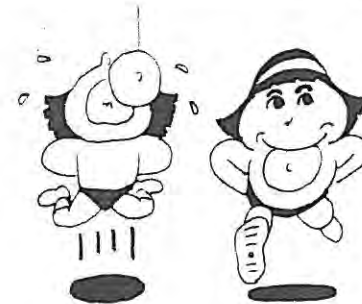
チャレンジセミナー ふりかえりシート

12月1日(土)開催しました第九回東大阪市手をつなぐ親の会運動会ではご協力、ご声援をいただき有難うございました。

保護者の皆さま、青山会の職員、地域のボランティア、東大阪市社会福祉協議会の方々、そして、今回は中・大学生対象の「福祉チャレンジセミナー」受講生の皆さまのご協力を得て、無事に終了する事が出来ましたことを心からお礼申し上げます。

福祉チャレンジセミナーは11月11日「私達に出来ることって?~ボランティア活動入門~」18日「自分達で企画、立案してみよう!」、12月1日「障がいアル・ナシ関係ない!みんなで楽しむ運動会」、12月18日「座談会・自分は どう変わった?頑張った自分に拍手!!」と4回シリーズで開催され、中学生1名大学生13名が運動会に参加して、アトラクション時にはコスプレをしてボールやテニスラケットなどをトン代わりにリレー競技をしたり、選手の皆とダンスをするなど会場を盛り上げてくれ一緒に楽しみました。後日「ふりかえりシート」をチャレンジセミナー主催者から頂き、その内容をみなさまにお伝えします。 瓜生 みのり

	チャレンジセミナーに参加する前	参加して思ったこと・感じたこと	これからやってみようと思ったこと
1	最初はすごく不安でどうすれば良いのかわかりませんでした。普段あまり障がい者の方と関わることがなく、どのように接していけば良いのかと色々考えました。	みんなと何一つ変わらないなあと思いました。最初に感じていた不安は全然なくなり、すごく楽しめました。もっとたくさんの人と関わりたいと思いました。	今回参加した運動会は2年に1回しかやらないと聞きました。私はこんな楽しい運動会なのにもったいないなあと思いました。もしまたこのようなイベントがあったら参加したいと思いました。
2	「ボランティア」に対して、マイナスのイメージはもう持っていませんでしたが、別に積極的にやろうとも思いませんでした。障がい者施設での美術講師のバイトを1年弱やっています。そのバイトを通して、障がい者に対する偏見などは既に消えていたと思います。逆に、所謂「健常者」と「障がい者」の境目って何だろうということが最近の悩みでした。	定義とか、言葉の意味とかを掘り下げて考えめぐねていましたが、「障がい者」と「健常者」という分け方は、便宜上必要なら使えばいいだけで、人と人の関わりにおいて、気にしなければならないことではないなと思いました。ボランティアも、自分が楽しめるならやったらいいし(責任はありますが)、社会のため、人のためと肩肘張るのではなく、今回のように「楽しい」と思う気持ちが一番大切だと思いました。	私は、東大阪市民なので、もっとたくさんの人たちに障がい者の人たちとの関わりを持ってほしいなと思いました。できれば同じ人と複数回会って、「友達になる」という経験を持ってもらえれば、もっと皆が住みやすい市になるかなと思います。偏見は「知らない」から起こると思うので。
3	参加する前までは、障がい者との壁を感じていました。実際に関わったこともなかったのが不安な気持ちがありました。	障がい者と私たちの感情は、何ら変わりなく同じであると感じました。運動会に参加したことにより、自分自身成長できたと思います。	機会があれば積極的に参加してみたいと思います。今後もゼミの活動を通じて学んでいきたいです。参加したことのない人にアドバイスしたいです。
4	運動会の企画段階から参加するということだったので、どんな感じになるのか全くわかりませんでした。	とても大変だったけど、やりがいととてもありました。運動会も楽しくできたので良かったです。	今回の運動会のような大きな企画や、人の役に立てるようなことをやっていきたいと思っています。
5	初めての体験で最初は緊張していた。ボランティアってどんなことするんだろうと。	いろんな人と、運動会を通して関わることができ、利用者さんたちは皆明るいと思った。勝手にしてたイメージと全く違った。皆フレンドリーで楽しかった。皆考え方は変わらない、まず関わるのが大事と思った。	積極的にボランティアに参加しようと思った。今回「ありがとう」とか言ってもらって嬉しかったから、またしたいと思った。
6	ボランティアとは、しんどい、大したことは出来ないのでは?と思っていた。障がいについては、運動会といっても簡単なもの?運動できるの?と思っていた。	障がい者の方も、職員も生き生きして元気をもらった。自分自身も楽しんで、自然と笑顔がこぼれた。企画したコスプレリレーや様々なお手伝いなど、皆さんに喜んでもらえて良かった。本格的な運動会で驚いた。	小さなイベントで、より障がい者の方と身近に関わったり、お話しできるようなものに参加したい。
7	障がい者と関わるのは、怖いイメージがあって、相手に気を遣わないといけないと思っていた。	相手に気を遣うのではなく、相手と対等に会話するのが大切だと感じた。	社会に出たら障がいのある人と関わることは減ると思います。だから、学生のうちに関わっていけるように、こういう会に出来るだけ参加していきたい。
8	ボランティアは、困っている人を助けてあげるイメージが今までありました。障がい者の方とは、今まで道ですれ違う程度で、関わる事が全くありませんでした。障がい者のイメージも本当に一般的に思われているイメージがありませんでした。	私たちが障がい者に手をさしのべるのは当たり前ですが、障がい者の方同士で協力されたり、声をかけ合っている姿を見て、心が温かくなりました。私自身、今回この運動会に参加させていただき、良い経験になりました。私たちが障がい者の方から学ぶことも多いのではないかと思います。	これからもずっとボランティアを続けていきたいです。新しいイベントがあれば何でもしたいです。



第1回ステップアップセミナー

「自分らしく関われる育成会」「育成会のあるべき姿」について考えよう

竹中 眞由美 (第二東福)

2月22日岡山県でステップアップセミナーに今回初めて参加させていただきました。全日本副理事長 久保さんの基本報告では、育成会活動で21世紀は「共生と人権の世紀」意思決定支援、自己選択、自己選択→自己責任→自己点検(障害者虐待防止法)意思決定支援って何だ。明確な定義はなされておらず、今後の議論が重要。

育成会を取り巻く現状で育成会内でも会員、役員の高齢化・固定化が言われて久しい状況です。家族内でも老障介護・障老介護・孤立の家庭も徐々に顕在化しています。

浜松モデルでは、顧問弁護士と契約し会員一人ひとりに弁護士がついている安心感、「思考・志向・試行」本人活動や国際交流・国際活動、育成会が70周年で会員が少ない為に、教育関連への運動をPTA活動とどのように連携して行くのか、PTA活動から育成会活動へのつながりをどのようにして行くのか、組織を若返りにつながる大きな課題と話されました。

全日本理事の古川さんのワークショップでは、各班ごとに分かれて ①育成会活動 ②70周年に向けて ③浜松モデル ④次世代のため ⑤本人活動 ⑥その他で六つの課題で「良いこと」「負担」の二つのテーマで、各班ごとに六つの課題について話し合い、1つにまとめて各班ごとに発表をしました。

常務理事の田中さんのこれからの育成会活動について、2015年本格的高齢者4人→1人 2人→1人が支える中で、グループホーム・ケアホームの整備数は順調に伸びていると言えますが「親なきあと」を考えると十分な設置数とはいえない状況です。グループホーム・ケアホームが一本化になりますが十分議論するとともに現在は未定です。決まり次第話をします。

小規模入所施設等ショートステイの整備、24時間 365日対応であること、家族からの自立の訓練ショートステイを活躍して、ショート全国で調査して手をつなぐに載せませす。

基幹相談支援センターでは、平成24年度予算において地域生活支援事業費補助金より基幹相談支援センターの機能化を図るための①専門的職員②地域移行・地域定着の取組③地域の相談支援体制強化の取組に係る事業費について国庫補助対象とした。

権利擁護、政策建言やみんなの意見をまとめて9月に政界に出しますと話されていました。いろんなことを考えさせるセミナーでした。

参加させていただきありがとうございました。

◇当会への寄附金です。(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

マリ-美容室様 10,000円 中山 和義様 5,000円

西田 房子様 10,000円 中山 和義様 5,000円

ご協力ありがとうございました。

